

F-23 加齢に伴う生活と適応能の変容に関する研究 第1報; I. 高年齢・高学
歴女性の生活状況

お茶女大・家政・文教育：浅見千鶴子，水野悌一，森下はるみ，○富田守

目的：加齢と共に成人以降における心身の諸機能の変化に関しては、一般的に低下の傾向を示すもののほか、比較的一定状態を保持する傾向を示すものもあり、また、さらには加齢とともに次第に発達してゆくものの存在さえ考えられる。これらの多彩な傾向を示す諸変化を、全体的に把握することこそ現在最も必要なことであり、我々もそれを目的としている。また、人の心身諸機能の変化パターンにはその人の過去から現在にわたる生活様式が密接に関連していることが考えられ、生活のあり方と心身機能の変化との相互作用の解明も大きな目的の一つである。今回はその第一歩として、高年齢・高学歴女性を対象にした調査結果の一部を報告する。

方法：明治31年より昭和5年までに東京女高師を卒業し、主として関東、中部、近畿、中四国地方に在住する人々、約1100名について、郵便によるアンケート調査をおこなった。調査項目は、住所、年齢、結婚、家族、住居、職業、生活費などに関するものである。

結果：発送1100通のうち回収520通で、回収率47.3%、うち有効回答数は515通、有効回答率は46.8%であった。そのうちでは東京在住者が56.7%を占め、最も多い。年齢は、65~75歳が主力で、63.1%を占める。既婚者は86.7%、未婚者は9.3%である。既婚者のうち夫が既になくなられた人は62.2%である。子ども数は0から6人以上まで、全体的に多様性が大きい。居住では独居16.2%、同居81.3%で、特に子との同居は同居のうちの42.9%、住宅は1個建が多く90.5%を占め、殆どが自己持家である。職は無いもの75.4%、あるもの24.6%で有職率はかなり高い。また自治者も多く、全体の61.4%を占める。